

巡る、さっぽろの街。

背景

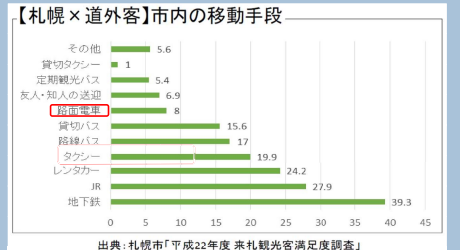
メンバー：北海道大学工学部環境社会工学科 河向隆志，濱田那津子
北海道大学大学院工学院北方圏環境政策工学専攻
阿部麻友子，梅原悠輔，柴原貴

札幌の観光の現状

【札幌×道外客】訪れる訪問地～中心市街地に集中

有効回答数	訪問地										
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
全体	時計台	大通公園	すすきの	中央区役所前	ラーン橋	北園通	サッポロビール園	サッポロビール園	北園通	西宮	西宮
634	68.0	68.0	55.0	31.2	20.1	16.6	16.6	16.2	15.2	13.2	
男性	時計台	大通公園	すすきの	ラーン橋	北園通	サッポロビール園	サッポロビール園	北園通	西宮	西宮	
634	68.3	67.4	57.2	33.0	20.8	18.1	18.1	15.9	15.9	11.0	
女性	時計台	大通公園	すすきの	ラーン橋	北園通	サッポロビール園	サッポロビール園	北園通	西宮	西宮	
366	68.3	65.8	32.0	31.1	28.1	22.4	16.9	16.1	13.9	12.8	

出典：札幌市「平成22年度 来札幌観光客満足度調査」



札幌市の観光客は市の中心部に集中している。だが、その中でも時計台や大通公園を訪れる割合が大きく、北海道大学やさっぽろビール園、さっぽろファクトリーを訪れる割合は小さい。名前は知っているが実際には訪れたことがない、といった観光地が意外とある。

札幌を訪れた観光客にとって、「市内の移動のしやすさ」が最も満足度が低かった。冬季のさっぽろは一車線が雪で塞がれてしまつて交通量が減少してしまう為に、市内を移動しにくくなる。

観光客にとっては、市内を移動する際に地下鉄、JR、レンタカーなどが主要な交通機関となっている。しかし路面電車は観光客にあまり利用されていないという現状がある。路面電車の路線が観光地の多い中心市街地を通過していないことがその一因であると考えられる。

現在の札幌市電



市電の魅力

- ・便数が多い
平日は6～7分間隔、休日は7～9分間隔で運行している。一方、バスはすすきの駅を発車するものが1時間に1～3便、通勤・帰宅ラッシュでも5便と運行本数には隔たりがある。その為、路面電車は一本乗り過ぎたとしても、代替の移動手段に悩んだり駅で待ちぼうけを食らう心配が小さいと言える。
- ・路面電車は走るコースが分かりやすい。
バスの様に一停留場から複数路線が発着する訳ではないので、路線図が見やすい。また、停留場どうしの間隔が短く、気になった場所を車内から見つけてもすぐ近くの駅で降りてすぐその場所に行くことができるのは、観光客にとってプラスである。
- ・街並みを見ながら移動できる
特に冬季は、雪が降っている中わざわざ歩き回らなくても景色を楽しめるといった利点がある。また、路面電車は車内が広く騒音も少ないため快適であり、景色を楽しむのに適している。

人の活動を支援
促す環境づくり
～利便性の向上～

人の交流と新たな
賑わいづくり
～活力の創出～

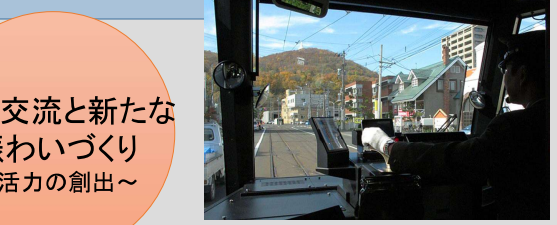
人とまちをつなぐ
路面電車

現在の札幌市の市電の沿線は都市部と言うよりは住宅地や山間部であり、とりわけ観光名所は藻岩山、中島公園くらいしかない。運賃は、大人はどこで乗り降りしても170円である。電車への現金乗り継ぎも可能。

人をひきつける
魅力的な空間づくり
～都市空間整備～

市電の発展の可能性

札幌まちづくり戦略ビジョン(長期総合計画)においても、都心は回遊性の向上と交通環境の改善を図ることを都市空間創造戦略として位置づけている。2015年12月20日、札幌市内を走る市電(路面電車)のループ化が実現し、西4丁目～すすきのの間約400mの路線が開業した。電車が歩道のすぐ横を走る「サイドリゼーション方式」を採用し、狸小路のアーケード街付近に新たな停留場も設置された。これにより利用者が増えるなど現在市電は注目されている交通手段である。



利用者増 街中に活気

市電ループ化1カ月

札幌市電のループ化が実現して1か月が経過した。利用者は増加傾向にあり、街中に活気が出ているとされている。

客層変化 商品見直しも

札幌市電ループ化後1か月の乗客数

日別	乗客数	乗客数(前年同月比)
平日	397,954	278,009人 (70%)
土曜日	225,184	177,228人 (79%)

提案

提案ルート



さらに利用しやすく

1日乗車券、乗り継ぎ券

現在、札幌市電には休日のみ使える一日乗車券があるが、平日にも使えたり既存の市電、地下鉄にもお得に乗り継ぐことのできるさらに利便性の高い1日乗車券を発行することで、気軽に観光を楽しんで貰える。

電光掲示板の利用

名所や食事場所がどこにあるのかなど、見知らぬ土地で情報を得るのは大変である。そこで各駅にある電光掲示板で、観光情報やお得なクーポン、他には例えばイスラム教徒には豚肉や酒を提供しない店などを多言語で知らせる。

すすきの駅観光案内所

市電のターミナル地点となるすすきの駅には観光コンシェルジュを配置する。これは観光客や地元の店舗等が困った時に代わりにコミュニケーションを図るサービスであり、全国に広がりを見せている。また、観光案内所ではパンフレットやフリーペーパー、地図を配布し、そこにさらに市電周辺の店舗のクーポン等を付けることで市電だけでなく店舗を積極的に利用を促進し、街に一層の賑わいを持たせる。



←石川県金沢市では北陸新幹線開業に合わせて金沢交通コンシェルジュが設置され、観光地およびバス、タクシーの公共交通の案内をしている。外国語にも対応しており、市役所、バス協会、ハイヤー協会共同で運営している。札幌でも是非導入したい。

新たに回れる観光地

北海道大学



約177万m²に及ぶ敷地内には、総合博物館や古河講堂、クラーク博士の胸像などの見どころが多数存在している。秋には北13条通りのイチョウ並木が黄色く色づく。また、イチョウ並木から少し西側へ歩いた所には有名なポプラ並木もあり、秋色になったポプラの木々もまた必見である。

すすきの



北海道を代表する歓楽街。食堂、有名ラーメン店、飲み屋が立ち並んでいる。毎年8月にはすすきの祭りが開かれ、花魁道中、連合神輿渡御、すすきのナイトフィーバー等の催しが開かれている。東西方向に広がっており、市電を利用することで観光客も迷わず安らぐことができ、全且つ一気に散策することができる。

大通公園



札幌市の中心部に位置する公園。春はライラックまつり、夏はYOSAKOIソーラン祭りやビアガーデン、秋には北海道の食が集合するオータムフェスト、冬はミュンヘン・クリスマス市や世界的なイベントに発展した雪まつり、と季節ごとにイベントが開かれている。提案ルートからは、大通公園とテレビ塔と言った札幌市のシンボルを一望できる。

ファクトリー



ショッピングモールを中心とした大型複合施設。ショッピング、映画館、レストラン、アミューズメント、ホテルなど、160もの店が軒を連ねる。中央に位置するアトリウムには緑あふれる屋内庭園が広がり、パブリックビューイングや各種イベント会場としても利用されている。クリスマスには巨大なクリスマスツリーが飾られている。

ビール園



東区北7条東9丁目に位置する、本場のジンギスカンを楽しめるレストラン街。思う存分ビールとお肉を楽しめる「ジンギスカンホール」、おしゃれな中庭と赤レンガを望むレストラン「Lilac」、道産食材にこだわったグリル料理を落ち着いた雰囲気ですたたく「GARDEN GRILL」の3つからなる。

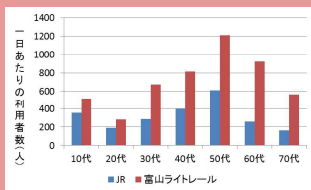
期待される効果

観光客にむけて

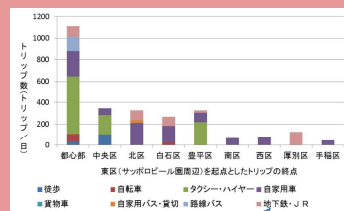
観光地をわかりやすく便利に回ることが出来る、騒音が少なく居心地が良い等、市電が札幌市内を観光客が移動する際の利便性を向上させることが分かる。尚、今回提案したルートには路線バスのそれと重なる区間があるが、路線バスは遅延しやすい、渋滞の原因になる等の問題があり、市電の活用でそれらを解消させ、観光客の満足度をも上げることに繋がる。

地元住民にむけて

新たに停留場が設置される地域の地元住民にも、札幌の中心部への新たな移動手段がもたらされるという利点がある。第4回道央都市圏パーソントリップ調査によると、サッポロビール園周辺では、自宅から買い物等の私用目的で毎日およそ6400トリップが発生していることが明らかになった。東区外への発生トリップのうち40%近くが本計画における提案ルートである札幌市中心部へのトリップとなっている。自家用車以外の公共交通等の割合も高いため、市電が延伸された際には新たな利用者が多く発生することが期待できる。



←富山市では2006年に新たに路面電車(LRT)が開業したが、前身のJR(富山港線)と比較して、その利用者は休日約3.5倍に増加した。中でも特に高齢者の増加率が高く、今後高齢化がますます深刻になる日本において、路面電車は住民の、特に高齢者の足として受け入れられる存在であることがわかる。



観光客や地元客に
新しい足を！！